

# 支援のアイデア 障害特性に基づいた支援

社会福祉法人 正夢の会  
パサージュいなぎ  
支援ディレクター  
堀内太郎

# この時間で学ぶこと 1

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害の状態になることを予防する支援を行うことができます。
- この時間は、自閉症の特性をベースにした予防的な支援の在り方を理解することがテーマです。

## この時間で学ぶこと 2

- また、本人の状態像の変化に応じて支援をリニューアルしていかなないと、本人とのズレが生じてしまうこともあります。その場合は、改めて今までの支援を見直し、さらに支援の補整や補強を行っていきます。

# この時間の流れ

講義

 動画視聴

- ① 支援の道筋
- ② 目で見てわかる支援が基本
- ③ 支援のポイントはどこにあるか
- ④ 具体的な支援のアイデアを動画で
- ⑤ 支援を見直すことの重要性

# ① 支援の道筋

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

- I その人の特性や人生のニーズを把握する
- II その人の特性に配慮した支援を考える
- III その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう

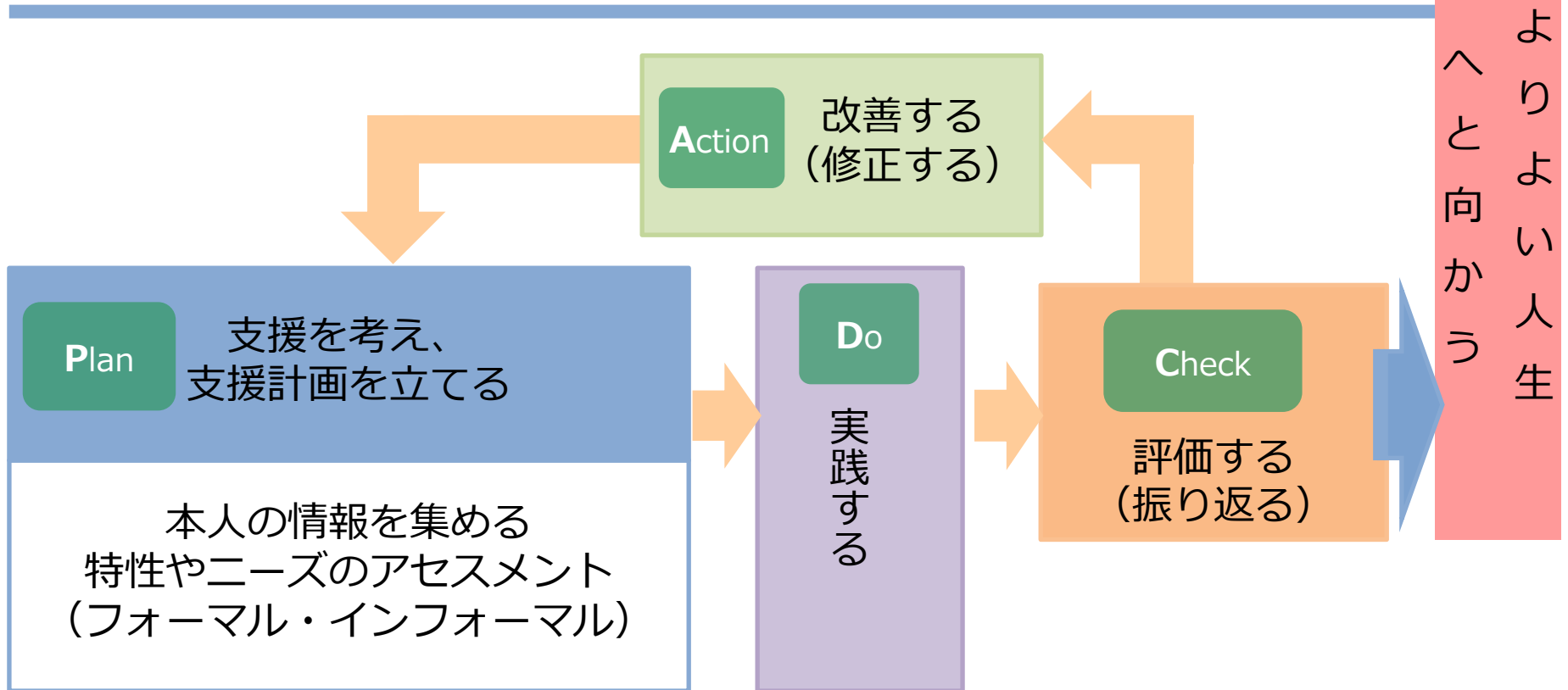
※PDCAサイクルとは、Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）を繰り返すことによって、業務を継続的に改善していく手法のことです。支援を考える際もこのサイクルを重視します。

- IV 支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて支援を見直し、支援の補整や補強をする

この講義では、II について主にお話しします。

予防的で基本的な支援をベースに、  
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

## 強度行動障害の支援



予防的で基本的な支援

② 目で見てわかる支援が基本



- 目で見てわかる支援をするのはなぜか？
  - 自閉症の人は目に見えないことの意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
  - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
  - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから

- 目で見えてわかる支援をするために
  - わかりにくい情報や生きにくい環境で暮らしている人たち。一人一人にわかりやすい形で届けたり整理したりする必要がある
    - = その人に合わせた支援
    - = 合理的配慮

③ 支援のポイントはどこにあるか

# 確実に伝えたい6つの情報

- 
- 
- 
- 
- 
-

# 6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 
- 
- 
- 
-

# 時間の工夫（生活の見通し）

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。





写真・半日



写真・1 場面





実物・1場面







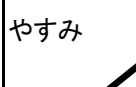
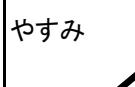











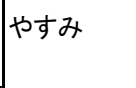
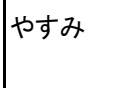




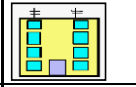
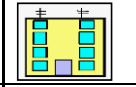
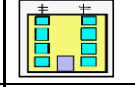





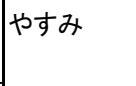
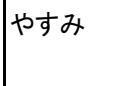












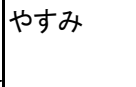
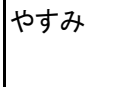


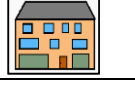
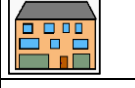
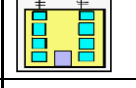
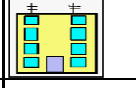
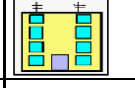


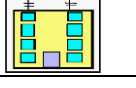
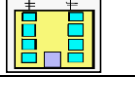
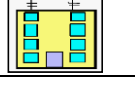
実物・2場面



○月△日(金)	
車に乗って○○作業所へ行く	○
仕事	○
休憩	○
エアロバイクをこぐ	○
お茶	○
仕事	○

文字・1日・チェック式  
+タイマー(携帯)

# 4月カレンダー

月	火	水	木	金	土	日
	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 やすみ	 やすみ
	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ
	1	2	3	4	5	6
 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 やすみ	 やすみ
 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 おうち	 おうち	 おうち
7	8	9	10	11	12	13
 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 やすみ	 やすみ
 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ
14	15	16	17	18	19	20
 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 しせつ	 やすみ	 やすみ
 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 ほーむ	 おうち	 おうち	 おうち
21	22	23	24	25	26	27
 しせつ	やすみ	 しせつ				
 おうち	 おうち	 おうち				
28	29	30				

カレンダー・1日  
(連絡帳にファイル)

# 時間の工夫

※「スケジュール支援」は「変化の意味」を本人の強みである「視覚的学習」で学び、「柔軟性(変化への対応)」を獲得すること。

こだわりの強いひとは「いつも同じ」で見せ続けていると変更への不安・拒否感が強まり（「〇〇以外はダメ」となりがち）

●「パターン（いつも同じ）」と「スケジュール（柔軟性を学ぶ）」の違い

パターン

$A \Rightarrow B \Rightarrow C \Rightarrow D$

A～Dの流れがいつも同じ

（“同じ順序”へのこだわりを生む）

スケジュール

# 1  $A \Rightarrow B \Rightarrow C \Rightarrow D$

# 2  $B \Rightarrow C \Rightarrow D \Rightarrow A$

# 3  $A \Rightarrow D \Rightarrow A$

「左から右」「上から下」等の“法則”

は教えるが、**順序は毎日ランダム**に提示

（“同じ順序”への

固執を避ける

= 柔軟性の獲得が目的）

# 場所の工夫

## (活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
  - 整理整頓は基本中の基本
  - エリア（境界）を明確に
  - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが...
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする



作業専用の場所



休憩専用の場所

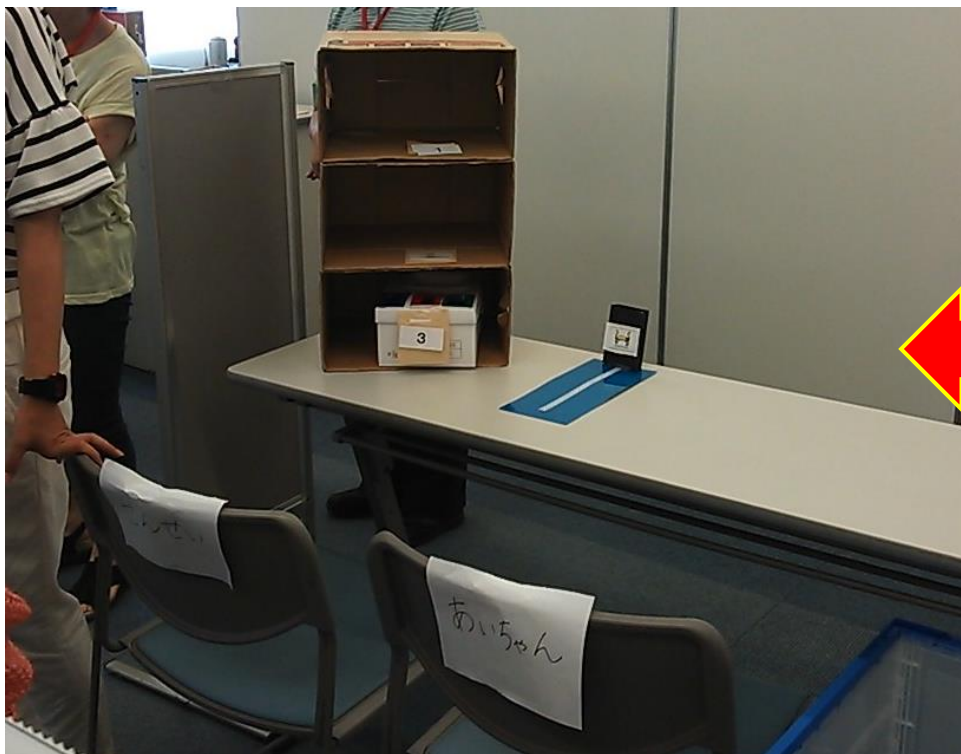


スケジュールを確認  
する場所









初めてのことを  
練習するエリア

ひとりで自立して  
できる課題を行う



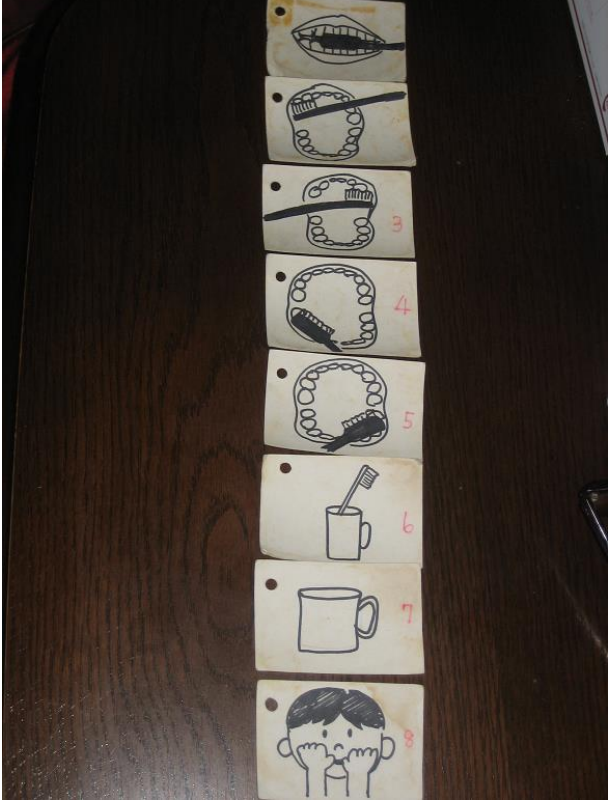


# 方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために

－やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。







# 「時間の工夫」と「方法の工夫」の 内容の違い



「時間の工夫」⇒基本的に  
「活動場所の順番」を伝える  
(仕事机, 休憩室, トイレ等)

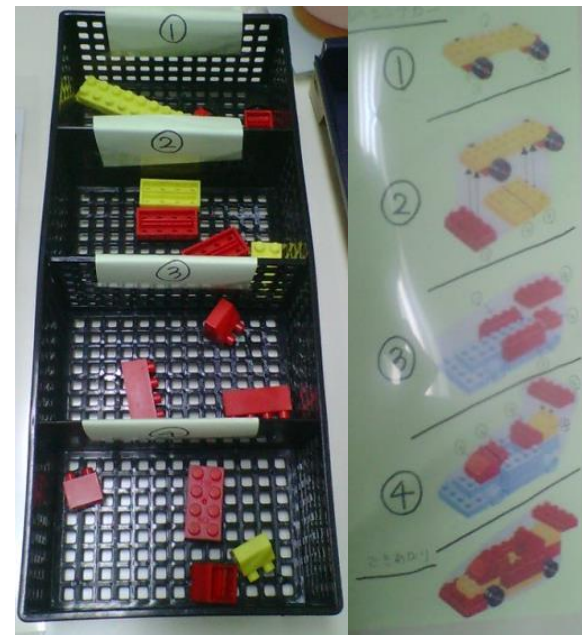
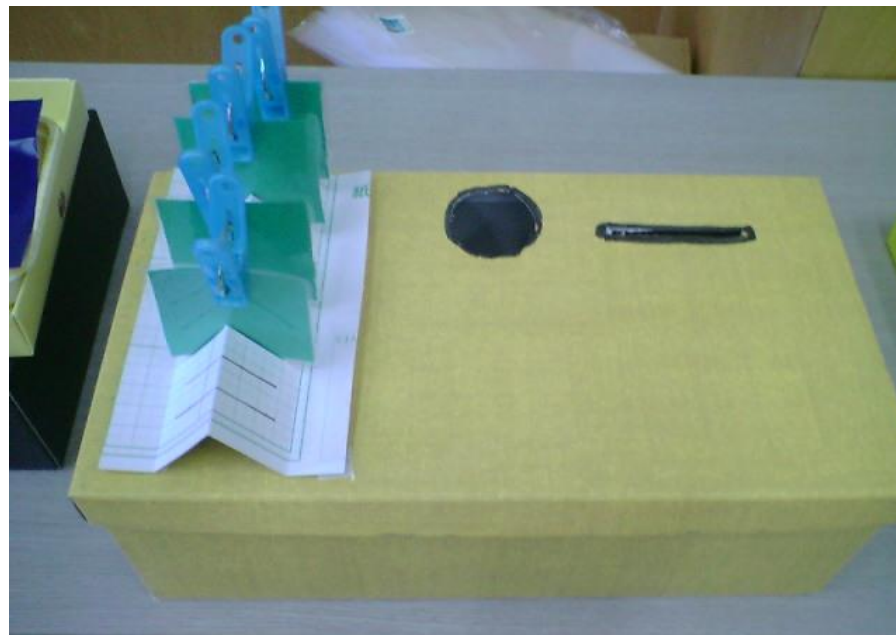
「方法の工夫」⇒基本的にひとつの  
場所で行う「活動の順番」  
(組立課題, パズル, マッチング課題等)



# 見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
  - －必要な情報に注目しやすくする工夫
  - －見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
  - －情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫



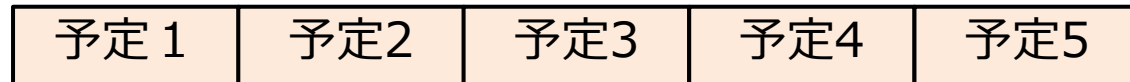
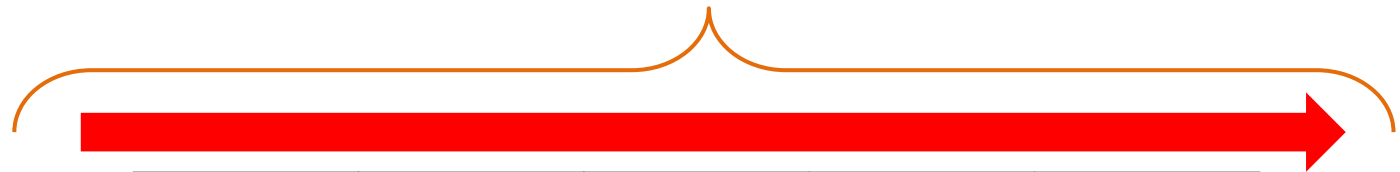






# 時間の工夫・方法の工夫・見せ方の工夫の関係

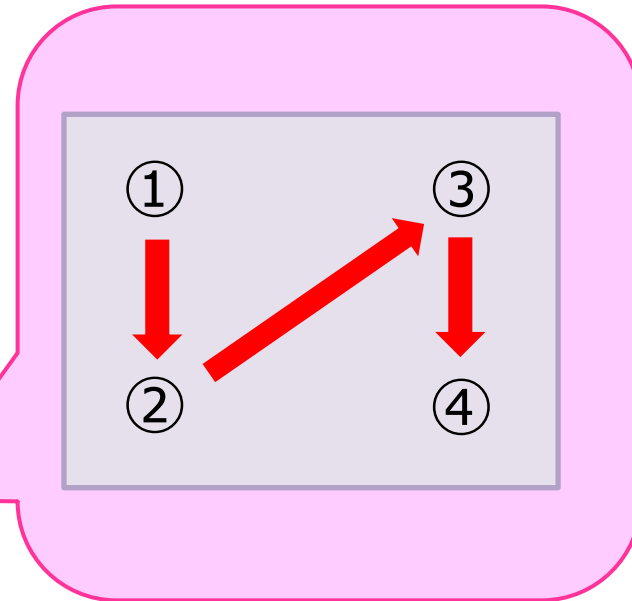
時間の工夫 全体的な予定（時間）の流れ



方法の工夫



予定  
ひとつの中の  
作業/活動の  
手続きと終わり



見せ方の工夫

作業/活動  
ひとつの中の  
手続きと終わり

# やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
  - ーコミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート







## ④ 具体的な支援のアイデアを動画で



# 6つの情報を確実に伝えるための 5つの工夫

- 時間の工夫（生活の見通し）
- 場所の工夫（活動との対応・刺激の整理）
- 方法の工夫（やり方・終わり・次）
- 見え方の工夫（ヒント・着目）
- やりとりの工夫  
（コミュニケーションツール）

特性確認シート

課題となっている行動（本人が困っている行動）『 作業中に自傷する 』				
		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い		A) 涙み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい		
		3) 相手がしているものを見て相手の考えを察することが難しい		
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える（見え方の視点・やりとりの視点）
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい		
		6) 見えないものの理解が難しい		
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい		D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのかことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない		
		12) 誰に伝えていいかわからない		
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい		
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい		G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい		
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）
		20) 臨機応変に判断することが難しい		
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点）
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある		K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある		
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある		
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある		
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある		
		30) 前庭覚の特有の感覚がある		

# 差込資料③「特性確認シート」

「5つの工夫」が「障害特性」のどの部分と関係しているのか

「特性確認シート」の「背景となる特性」と「支援のアイディア」とのつながりも見ながら考えていきたいと思います。



## 時間の工夫（生活の見通し）

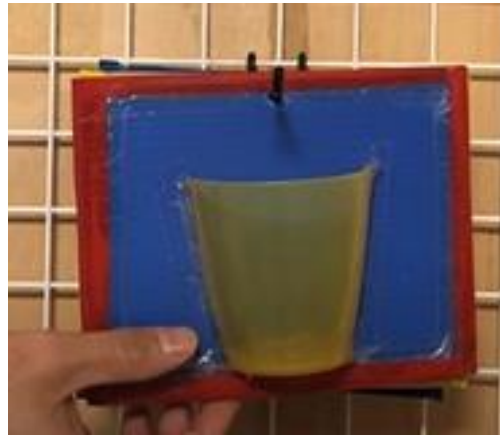
- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

# 「時間の工夫」 (例①)

- \* 「上から下」の流れで提示
- \* 場面が終わったら、おしまい箱に入れて「終わり」を理解する
- \* 次の場面（しごと）を確認する
- \* 次の場面（しごと）の机に移動



# 時間の工夫（例②）



「串刺し」式の予定表（スケジュール）は  
「1回に1枚」しか取れないようにすることで  
「今、何の活動なのか」が分かり易い  
システム

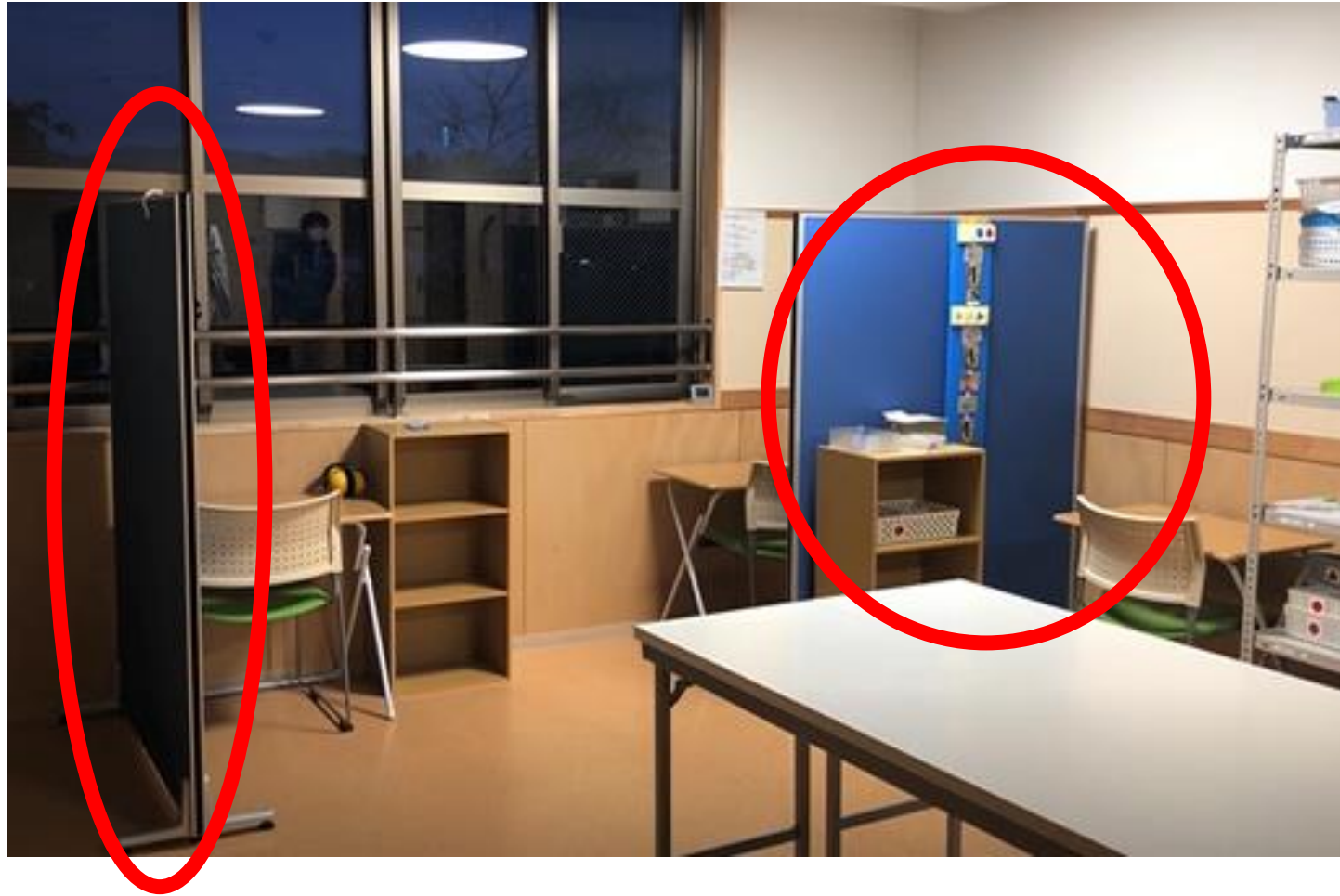
		背景となる特性	支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい	
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い	I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
		23) 細部が気になり違いに敏感	
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる	

# 場所の工夫

## (活動との対応・刺激の整理)

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
  - 整理整頓は基本中の基本
  - エリア（境界）を明確に
  - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが…
- 苦手な刺激を少なくするための配慮をする

# 場所の工夫（例①）



気になる「目に見える」刺激の調整  
(一人ひとりの特性や必要性に応じて)

		背景となる特性		支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい		G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）  H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	✓	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点）  J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）
		20) 臨機応変に判断することが難しい		
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		
感覚	感覚が敏感または鈍感	25) 聴覚の過敏や鈍麻がある		K) 苦手な刺激を少なくするための配慮をする（場所の視点）  L) 好きな刺激、必要な刺激は保障する（場所の視点）
		26) 視覚の過敏や鈍麻がある	✓	
		27) 触覚の過敏や鈍麻がある		
		28) 嗅覚の過敏や鈍麻がある		
		29) 味覚の過敏や鈍麻がある		
		30) 前庭覚の特有の感覚がある		



## 場所の工夫（例②）



ひとつの活動にひとつの場所



		背景となる特性	支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える (時間の視点)
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい	
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする (時間の視点・場所の視点)
		20) 臨機応変に判断することが難しい	
物興			I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする (方法の視点)
			J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする (方法の視点)

場所の工夫 (例②)



ひとつの活動にひとつの場所

## 方法の工夫（やり方・終わり・次）

- 「何を」「どのくらい」「どうやって」「次は」という理解を助けるために

－やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。

# 方法の工夫 (例①)









動の流れを伝えることで  
活動に取り組めます

# 方法の工夫 (例②)



- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1) 上の作業をとる                  | 4) 下の作業をとる                  |
| 2) 机の上で<br>作業をする            | 5) 机の上で<br>作業をする            |
| 3) 終わったら<br>「おしまい箱」<br>に入れる | 6) 終わったら<br>「おしまい箱」<br>に入れる |

		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い		A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)  B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)  C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい		
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい		
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい	✓	
		6) 見えないものの理解が難しい	✓	

		背景となる特性		支援のアイデア
想像力	自分で予定を立てることが難しい	16) 段取りを適切に組むことが難しい	✓	G) 本人に分かりやすく予定や変更を伝える（時間の視点）
		17) なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい		
		18) 今やることを自分で判断することが難しい	✓	H) 始まりや終わりを分かりやすいようにする（時間の視点・場所の視点）
	変化への対応が難しい	19) 先の予測をすることが難しい		
		20) 臨機応変に判断することが難しい		I) 活動に意味や目的を持つことができる工夫をする（方法の視点）
		21) 自分のやり方から抜け出すことが難しい		
	物の一部に対する強い興味	22) 興味関心が狭くて強い		J) 最初から正しい方法で行うことができるようにする（方法の視点）
		23) 細部が気になり違いに敏感		
		24) 少しの違いで大きな不安を感じる		



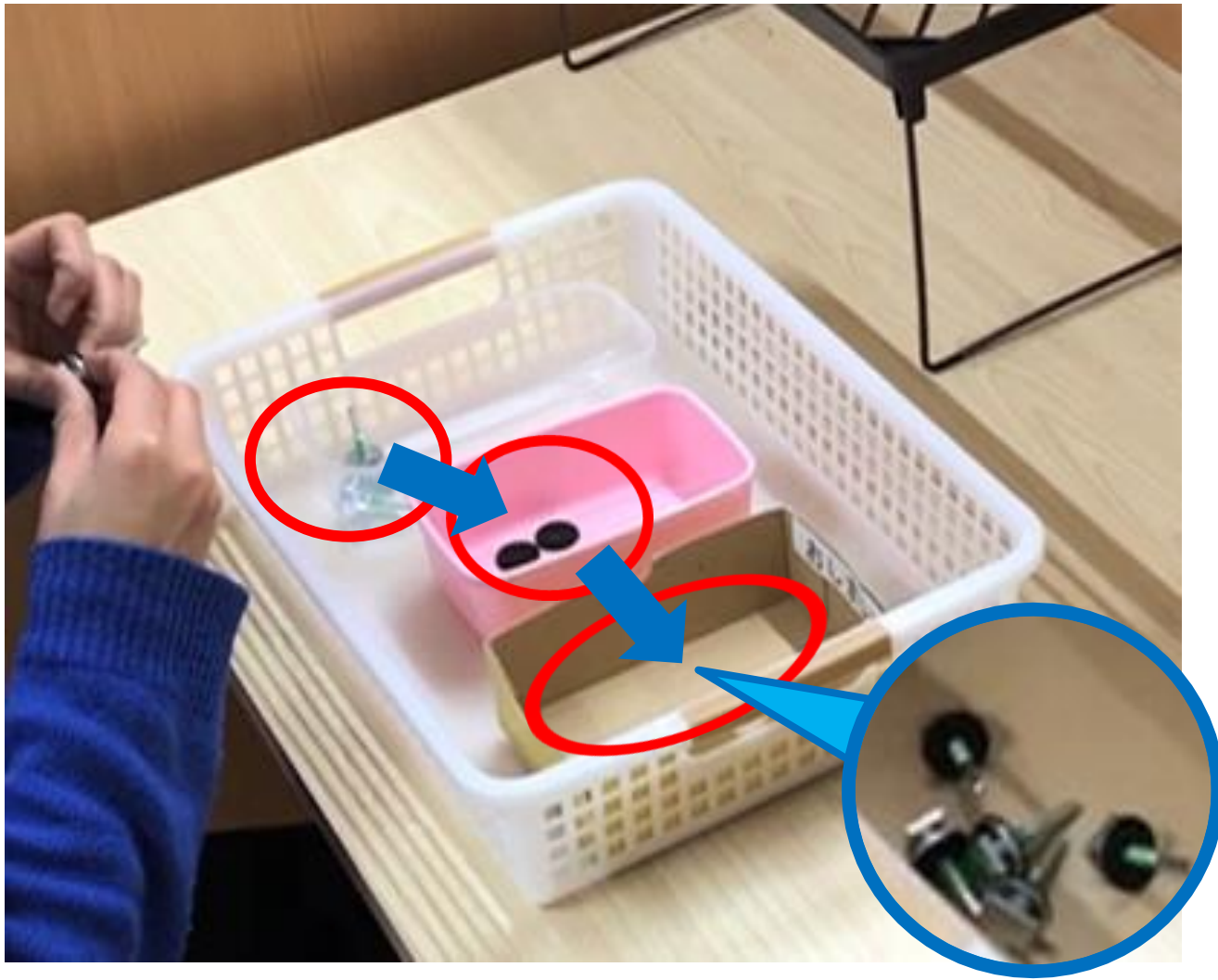
## 見え方の工夫（ヒント・着目）

- 見てすぐにわかる情報を提示するために
  - －必要な情報に注目しやすくする工夫
  - －見るだけで何をすれば良いかがわかる工夫
  - －情報や材料が見やすい・扱いやすい工夫

# 見え方の工夫（例①）



# 見え方の工夫（例②）



		背景となる特性		支援のアイデア
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい	✓	D) 本人が理解できる見える情報（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）で伝える（やりとりの視点・見え方の視点）
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを（文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など）提供する（やりとりの視点・見え方の視点）
		11) どのようにして伝えたらいいか分からない		
		12) 誰に伝えていいか分からない		
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする（やりとりの視点・見え方の視点）
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい		

# やりとりの工夫 (コミュニケーションツール)

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
  - ーコミュニケーションの手続きを視覚的に示し、コミュニケーションの成功体験をサポート




「何を」「どのように」「誰に」「伝える」？  
(ボードをはがして、職員に渡す)  
⇒発信する内容を「明確・具体的」  
にして「相手(職員)」に向ける

		背景となる特性		支援のアイデア
社会性	人や集団との関係に難しさがある	1) 相手への関心が薄い		A) 汲み取ってもらう、察してもらうではなく、具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		2) 相手から期待されていることを理解するのが難しい		
		3) 相手が見ているものを見て相手の考えを察することが難しい		
	状況の理解が難しい	4) 周囲で起こっていることへの関心が薄い		B) 誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える(見え方の視点・やりとりの視点)
		5) 周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい		C) 「いつ」「どこで」「何を」の情報を見てわかるように伝える(方法の視点・やりとりの視点)
		6) 見えないものの理解が難しい		
コミュニケーション	理解が難しい	7) 話し言葉の理解が難しい		D) 本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)で伝える(やりとりの視点・見え方の視点)
		8) 一度にたくさんのことを理解するのが難しい		
		9) 抽象的であいまいな表現の理解が難しい		
	発信が難しい	10) 話し言葉で伝えることが難しい		E) 本人が発信しやすいツールを(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物など)提供する(やりとりの視点・見え方の視点)
		11) どのようにして伝えたらいいかわからない		
		12) 誰に伝えていいかわからない		
	やりとりが難しい	13) 場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい		F) 視覚的なツールでやりとりができるようにする(やりとりの視点・見え方の視点)
		14) 表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい		
		15) やりとりの量が多いと処理が難しい		



## ⑤ 支援を見直すことの重要性

- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、改めて今までの支援を見直し、支援の補整や補強をしていきます。
- この見直し作業を繰り返しながら、本人に合った支援を整え、本人が力を発揮しやすい環境をつくっていくのです。



支援のアイデア  
—ご清聴ありがとうございました—